



岡田理子「花のダンス」F6（水彩）

作者コメント：

テーブル上に散らした菊がダンスを踊ってるようで、久しぶりの「あとリエー丁」に参加出来た今日の楽しい気分を表現しました。
塩を振ったり、マスキングしたりして、思いっきり冒険してみました。

喜田コメント：

最近の岡田さんの作品素晴らしいです。今月の作品も申し分ないです。
「花のダンス」というタイトルと卓上の2輪の菊、そしてマスキングで表現した白い模様が、ピッタリです。まるで「くるみ割り人形のワルツ」を踊っているような軽快さと動きを与えています。文字通り「花のダンス」になりました。色彩も構図も申し分ありません。



黒田重雄「夏の花」F8（水彩）

作者コメント：

喜田コメント：

硝子の花瓶に活けられた色々な花を丁寧に描いています。ガラスの表現も水に差された茎の表現もとても上手で申し分ありません。

この作品をもう一段グレードアップするために必要なことは、写生を絵画にすることです。卓上に光と影を面白く、かつ強く作ってみてください。背景は薄いモノトーンでOKです。きっと1枚の絵画になると思います。



竹前義博「紫の小菊たち」F8（水彩）

作者コメント：

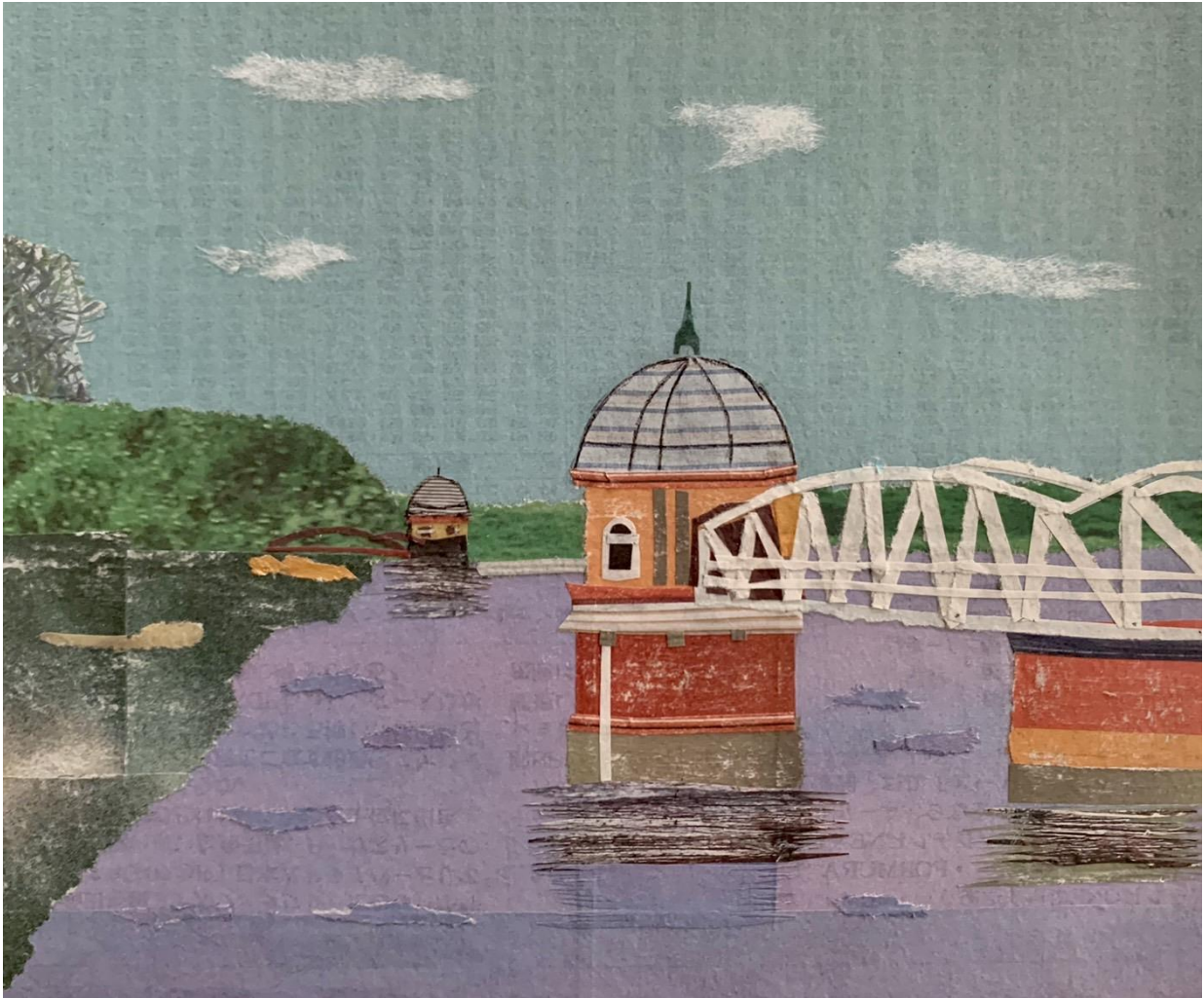
喜田コメント：

硝子の花瓶に、賑やかに差された色々な花の中から「紫の小菊」だけを選んで描いたところに作者の意思が感じられて良かったと思います。

構図もバランスも良いと思いますが、一つだけ「菊の葉っぱの表現」をもっと工夫しましょう。作品の葉っぱは萎れて今にも死にそうです。もっと思い切って生き生きとした葉っぱを描いてください。実物と多少違っていても、思い切って元気のよい竹前さんの葉っぱを描いてください。

背景も机も工夫されていてこれでよいと思います。

黒田さんと同じで、卓上に小菊や花瓶の影を演出してみてください。



月川りき江「東村山下貯水池取水塔」小色紙（21cmx18 cm）新聞ちぎり絵

作者コメント：

東村山下貯水池は多摩湖周辺（東大和市）にあり、その取水塔は日本で一番美しい取水塔と言われています。制作にあたり、水面の陰を表現できる最適な新聞紙が見つからなかったのが残念です。

お天気の良い日には、多摩湖と富士山と取水塔のトリオを同時に見ることが出来るそうです。

喜田コメント：

すっきりした作品ですね。中心の取水塔とブリッジがモチーフの中心として、とても良く表現されています。

作者コメントに記載されているように、水にもう少し変化を与えるべきです。

具体的には取水塔・ブリッジ・遠くの取水塔の影を、意思をもって貼ってみてください。水面に思いきった影の表現が欲しいです。

左下の3角形の緑は遠方の森の影ですね。取水塔やブリッジにも、このくらいの明確な影を期待します。



遠矢慶子「夏の静物」F8 (パステル)

作者コメント：

ゴクゴク水を飲んで、夏野菜をタップリ食べて、暑い夏を乗りきりましょう。

喜田コメント：

淡く色彩豊かにパステルを使って描かれています。とても絵画的です。

「夏の静物」は、水差し・とうもろこし2本・鉢植えの観葉植物・台の上に置かれた桃でしょうか？

構図的には中心に対象物が一塊となっていてよいと思います。また、周りを美しい黄色の綿が取り囲み、見る人に沢山、想像させるものがある、良いと思います。

水差しの手前の赤い筒状の物が気になります。ここに赤い筒の代わりに、レモンとか、桃を置いた方が一層作品として良くなると思います。



武智康子「チェコボールとフルーツたち」F6（水彩）

作者コメント：

丁度、白桃やシャインマスカット、ブルーベリーがあったので、それにチェコのフルーツボールを添えて描いてみました。最初は、バックを薄めにしたのですが、何か物足りなく感じたので、ブルーの色を少し濃くして、敢えて筆あとを残しました。

喜田コメント：

「チェコボールとフルーツたち」桃とシャイン・マスカットの瑞々しさがよく描けていますね。しかし、チェコボールが良く分かりません。チェコ製のガラスのフルーツを入れる容器だと思いますが、まず、分厚いガラスの重量感がありません。ギザギザの形をしたガラス製ボールの表現に工夫の余地があります。ガラスの容器はこの作品の中で面白さを出すためにとても重要な要素です。正確に写生的に描くより、ガラス容器に見えるように描く工夫が必要です。多少の嘘は絵画では必要な要素です。さりげなく嘘を描くのです。

ブルーを入れた背景（ガラス容器の部分の背景）は良いと思います。



筒井隆一「美女の木版画」F4（水彩）

作者コメント：

パリで活躍した藤田嗣治の作品『ブロンドの女』の木版画を友人が持っていたので、唐辛子の入った花瓶と鶏をあしらい、写生してみました。

喜田コメント：

筒井さんはまたまた面白い個性的な作品を描いてくれましたね。

まず、構図が抜群です。大きな絵画作品（藤田嗣治の版画には見えませんが）を背景にして、大きな陶器の花瓶に投げ入れた真っ赤な唐辛子の束、鶏のおきもの、この組み合わせが誠にユニークです。背景の額の上部を切ったところも面白いです。

バランスを考えて敢えて壺を大きく描いたのでしょう。筒井さんらしい個性的な作品です。作品の主体は「美女の木版画」ですか？ それとも赤唐辛子を投げ入れた壺ですか？ それによってタイトルが変わります。私なら「美女を背後に赤トウガラシ」くらいのタイトルにして、赤唐辛子を主人公にしたいです。



喜田祐三「大きな白菊と花たち」F4（水彩）

作者コメント：

いつもの花屋さんに、モチーフ用に頼んでおいた格安の花束、行ってみたら「今の時期だから菊が沢山余ったのでこれを描いて」といって大きな数本の白菊と何本かのカーネーション、百合などを花束にして、安く分けてくれました。

「あとリエ」のみんなは菊を描くのは嫌がるだろうなと思いながら「ばるーん」の会場に持って行きました。案の定、白菊を描いたのは岡田さんだけでした。

私も今まで、白菊を描いたことがなかったので、描いてみて、とても難しいと思いました。工夫しながら描いてみました。次回はもう少し面白く描けると思います。